

菜の花プロジェクト2017 報告会

平成29年12月2日（土）午前9時30分から、鳥取中央農業協同組合本所（グリーンコープ グリーン・太陽閣）を会場に倉吉市内小学校児童代表（45名）、中学校生徒代表（25名）が集まり、「菜の花プロジェクト2017報告会」を開催しました。



各小中学校の代表が発表を行いました。菜の花の種をまいた時の様子と今の苗の様子をスライドで紹介しながら、各学校の取り組みの報告や今後引き継ぎたいことについて提案しました。

今年度は各中学校区での特色を活かした取組を行うことにしましたので、中学校区ごとのつながりができてきました。

また、このプロジェクトには、学校・地域の皆さんにお世話になり、のべ2,406名の方々に関わっていただきました。

主な発表内容は以下のとおりです。

【各学校の取り組み報告】

■菜の花について…「咲かせよう 復興の花 倉吉の笑顔」

- ・菜の花で入学式会場を装飾
- ・菜の花プロジェクトの歴史・目的を説明
- ・地域の方による耕耘、畝づくり、草抜き等
- ・地域の方と合同の畝作りや種まき
(土曜授業も活用して)
- ・小学生と中学生と一緒に種まき (中学校にて)
- ・保育園児と一緒に種まき (上学年が教える)
- ・水やり、追肥、間引き、植え替え、藁敷き
- ・プランターに種まき
- ・プランターをプレゼント (公民館、地域の方、保育園、児童クラブ)
- ・種の収穫 (全校で、地域の方と)
- ・菜種を配布 (運動会・文化祭・イベント・学校公開などで、来賓・地域の方・独居老人・保育園・関係機関に)
- ・ちらし、ポスターの作製
- ・ちらしや放送で種まきの協力を地域や保護者に呼びかけ
- ・菜種を配布する際の手紙やパンフレットの作製
- ・校内に菜の花コーナーを作成・掲示
- ・ウェブページで菜の花プロジェクトの活動報告

■協力していただいた地域の方々や団体

- ・公民館 ・保育園 ・ボランティアの方
- ・シニアクラブ、老人クラブ ・地域の方 ・保護者

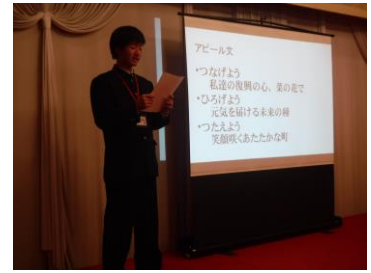
■菜の花以外に取り組んだこと

- ・エコキャップ運動 ・あいさつ運動
- ・他の花の栽培 ・クリーン活動、地域の清掃活動 (玉川、打吹山、サイクリングロード)、
ゴミ拾い大作戦、地域の方との交流掃除
- ・山上憶良の短歌賞に親子で作品応募



【次年度に引き継ぎたいこと】

- ・今年取り組んできたことを継続すること
- ・ごみを拾うだけでなく、ごみを捨てられないようにする活動
- ・単に活動するだけでなく、その意味や意図を説明していくこと



続いて、次年度に引き継ぎたいこととアピールについて全体で確認しました。このアピールは、中学生が原案を考えたものです。この確認の中で、代表の中学生は、「関係機関、地域の方と協力してまちづくりのための活動を、今後も進めていきたい。」と力強く話していました。

【 菜の花プロジェクト2017アピール 】

- ・つなげよう 私達の復興の心、菜の花で
- ・ひろげよう 元気を届ける未来の種
- ・つたえよう 笑顔咲くあたたかな町

アピールが採択された後、関係機関の方々から指導講評をいただきました。

【 J A鳥取中央 中央営農センター 山本センター長】

9年間すべて参加させてもらっている。活動の内容・発表の態度が年々充実してきている。最初は咲かなくて大変苦勞をしたが、今ではきれいな花を咲かせている。

10年目を通過点として倉吉の郷土愛をもってさまざまな取り組みを続けていってほしい。



【国土交通省 倉吉河川国道事務所 神宮所長】

学校や地元でやっている活動について発表をしている。これには意味があると思っている。地域の方とのコミュニケーションは重要なこと。災害時に地域のコミュニケーションがあるかどうかはとても意味がある。

みんなの前で発表することは勉強になるし、情報を共有することは役に立つ。10年目に向けて、いい計画をたてて実行してほしい。

学校、地域のコミュニケーションが発達していくことを願っている。



【中総合事務所 地域振興 梅田局長】

菜の花は生き物なのでいろいろなトラブルに合うが、それを乗り越えながら活動していると思った。励ましに対して感謝のメッセージを送られたり、家で家族をテーマにした短歌を考える活動をされたりと、地域に菜の花を咲かせるだけでなく、心に花を咲かせる活動だ。

清掃活動の意味、何のため誰のための活動かという視点に気づかれたことに感心した。

菜の花を植えることからどんどんと大きな活動に広がっている。



【鳥取県立農業大学校 門脇准教授】

菜の花が咲かないという問題があった当初から、次々と新しい解決方法やリスク回避方法を取り入れてより良い方法にしている。

とても難しいとは思いますが広い範囲での菜の花を見てみたい。

花を見ていやな気持ちになる人はいない、花をもらってうれしくない人はいない。発表の姿、聞く姿勢などとても立派。（延べ人数だけ）市の人口の5%が菜の花プロジェクトに参加している。



最後に当日開催されていたJ A鳥取中央主催の大農業祭のステージを借りて「菜の花プロジェクト2017アピール」を行いました。各中学校の代表生徒が各関係機関の方々にアピール文を贈呈しました。



9年目を迎え、これまでの先輩の思いを後輩達がしっかりと受け止め、今年の活動につなげていました。ふるさとに誇りと愛着を持つ児童生徒の姿に、心強さを感じ、倉吉の明るい未来を感じることができた一日でした。



【児童生徒の感想より】

- 色々な小学校が、災害などに負けずに工夫していてすごかった。小学校にいるのはあと少しだけど、5年生と協力して、水やりなどにがんばっていきたい。
- あいさつや菜の花について、いろいろな学校が工夫していたのでまねしたい。ゴミ拾いなどの新しい活動も計画したい。
- いろいろな学校がそれぞれ工夫をして、倉吉が菜の花いっぱいにしてほしいのでよかった。台風などがきて、被害を受けてもあきらめずにやっと思いようと思った。
- 自分たちの地域しか見れていなかったが、今日の報告会で、他の地域では何を思って何をやっているのかしっかり「知る」ことができた。これを「菜の花」で終わらせるのではなく、「プロジェクト」として後輩にもつなげていきたい。
- 一つ一つの学校が工夫して、違う取り組みをしていて、こういう活動は、何十年先も続けていきたいと思った。

